

【第十一回】「仮名の基礎・基本とその書き方」

— ⑪ ひらがな単体の解説 —

■ 前回のポイント

前回は基本線について学んだあとに、いろは歌のお手本を示しました。まず基本線のポイントを振り返ってみましょう。

- ・ 縦線、横線とも遠くから筆を動かして穂先から入り、線の真ん中に膨らみをもたせて遠くに抜いて行く。
- ・ 逆筆（進行方向の反対側から入る書き方）もよく使うので練習する。
- ・ 転折では筆を止めてかるーく押さえてからゆっくりと方向を変える。
- ・ 回転では筆を止めるか速度を落として、穂先のパネとなびきをコントロールする。
- ・ 連続曲線は穂先をなびかせたまま切り返すものと穂先を立ち上げて切り返すものがある。

では前回掲載した「いろは歌」手本の解説を始めようと思います。

■いろは歌①墨色の変化

まず全体を見てみると（図1）、墨色の変化に気がつかれると思います。仮名を書くときには一文字ずつ墨をつけてはいけません。いっぺん墨をつけたら必ず数文字を書くようにします。今回は言葉の切れ目を気にせずに十文字ずつ書いてみました。墨継ぎの位置が隣の行と同じにならないように気をつけてください。

基本古筆では、多くは句や言葉の区切れに気を使って書かれています。図2では、初句・三句・五句の先頭で墨をつけて書かれています。後にこの書き方が短冊を書く際の決まり事となっ

巣鴨中学校・高等学校教諭
本誌手本揮毫者

熊坂 尚史

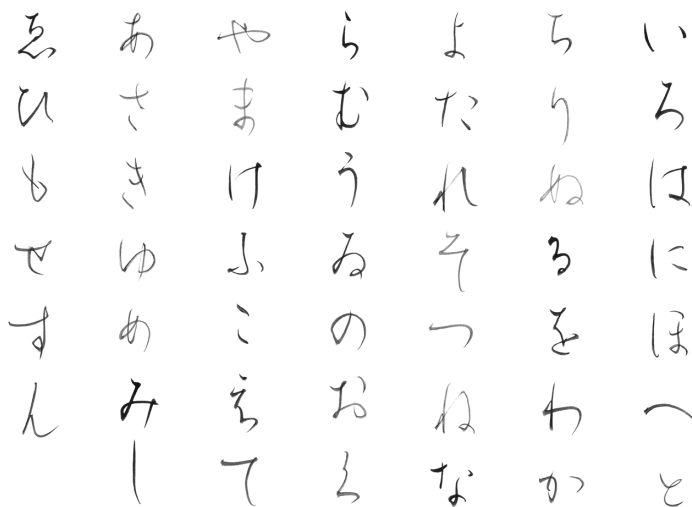


図1 いろは歌

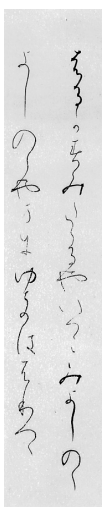


図2 高野切 第一種



図9 「むめ」
(関戸本
古今和歌集)



図8 「こふ」
(高野切第三種)



図7 「はる」
(高野切第一種)



図6 「ひと」
(高野切第一種)

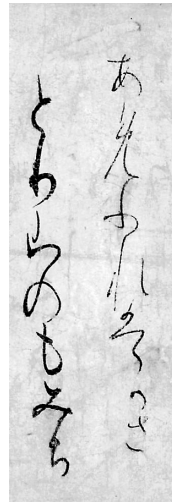


図5
寸松庵色紙

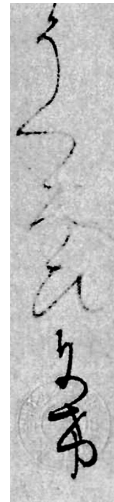


図4 関戸本
古今和歌集



図3 高野切
第一種

とにしようと思えます。
他にも、図3〜5のように、句や語の途中で墨継ぎをする例を見つけることが出来ます。

■いろは歌②文字の大きさ

次に文字の大きさに注目してみましょう。

古筆は当然のことながら手書き文字ですので活字と違い、それぞれの文字に個性があります。図6〜9をご参照ください。すぐにお気づきのことと思われるが、「と」、「る」、「こ」、「め」が小さく書かれています。古筆の中ではこの四文字は通常小さく書かれています。イメージで言ったら半分から三分の一くらいの大きさでしょう。

■いろは歌③筆使い・字形

それでは筆使いや字形で注意すべき何文字かをピックアップして解説しましょう。

「は」

一画目は縦画の基本線です。方向が変わる左下ではしっかりと穂先を立ち上げて次の画へ向かいます。押さえてしまっはいいけません。

「に」「ほ」「け」の一画目も同様です。字母を

辿れば「は(波)」「↓さんずい、「に(仁)」「↓にんべん、「ほ(保)」「↓にんべん、「け(計)」「↓こんべんですが、すべて同じ形になっています。

「ほ」

結びの形は「は」は平べったく、「ほ」は三角形を意識して書いてみましょう。

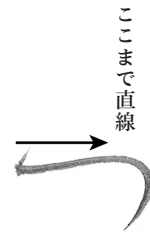
「へ」

逆筆で入り山なりに反らせながら右下に向かいます。途中、活字のように押さえずになめらかに書くのがコツです。



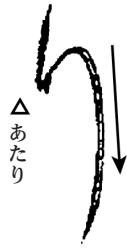
「つ」

「へ」に似ているように感じられるかも知れませんが、右肩で曲がり始めるまでは直線を引くイメージです。



「り」

縦に短くあたってから穂先の弾力を活かしてはねあがり、まずはしっかり右下に向かいます。収筆が左に曲がりすぎないように気をつけます。



「ぬ」

字母は「奴」。女偏と又から出来ていることを意識すると、自然に重心が左に寄っていきますね。



「を」

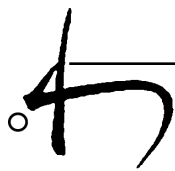
なかなか字形がとりづらい字ですが、下部があまり大きくならないように書きます。より字母の「遠」に近い形で登場することもあります。



(高野切第一種)

「わ」、「れ」、「ね」

一見すると似たような形に見えますが、「わ」は高い位置であたり、余り右あがりには書きません。それに対して、「れ」「ね」は低い位置であたって強く右上に上がっていきます。字母はそれぞれ「和」「礼」「祢」。のぎへんの省略法と、しめすへんの省略法の差が関係しています。



「た」

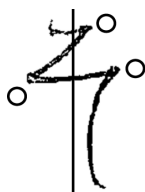
活字では右部分がひらがなの「こ」に似た形のものが多く見られますが、最終画は内側にかきます。字母の「太」も手書き文字では点を左に寄せて書くのが一般的です。



(九成宮醴泉銘)

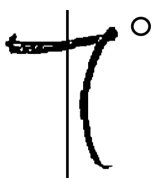
「そ」

三度の転折をしっかりと書きましょう。最後の反りは中心より右側です。



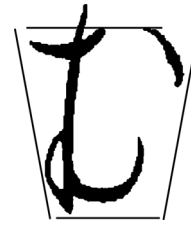
「て」

逆筆で入り転折して下に下がります。「そ」同様に中心より右に抜きます。



「む」

台形を逆にしたようなイメージです。点は横画と同じ高さに書きましょう。「か」「な」も同様です。



「う」

点は右肩の上に書きます。



「く」

上代の仮名では一回ゆらす書き方が一般的です。字母は「久」。



(高野切第三種)



(関戸本古今和歌集)

「え」

見慣れている活字の字形からすると最も違和感を覚えるかも知れませんが、あまり左下への線を伸ばしすぎないように書きます。



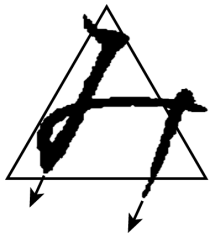
(活字)



(高野切第三種)

「み」

二等辺三角形のイメージです。字母の「美」の上部が真ん中に書かれていますから、中央から書き出すようにしてください。最後に左下に向かう線は前半の斜線と平行か少し開くくらいが良いでしょう。



「す」

前半を反らせながら左に寄せます。折り返し地点が中央に寄らないようにしましょう。後半は直線的に書きます。



「す」

字母の「寸」がそうであるように、縦画は右に寄ります。



すべての文字について解説することは出来ませんが、ひらがな単体を繰り返し練習してみてください。